

◆令和4年度市政懇談会 意見交換内容◆

～ 各会場で発言のあった参加者の皆様からのご意見・ご質問と
その場で市長のコメントの一部を抜粋しご紹介いたします ～

※個人や特定の団体の個別の要望事項については、
個人情報保護の観点から掲載を控えさせていただきます。何卒ご了承ください。

	参加者からのご意見	市長の答弁概略
6月13日 十文字会場	9月に支給される5,000円の商品券（よこて市民応援商品券）は、所得制限等はあるのか。	所得制限なく、1人につき5,000円となる。
	目に余るごみのポイ捨てがある。クリーンプラザが出来てから、より顕著になった。行政からの指導や罰則等を設けてはどうか。	クリーンプラザができたことは理由ではないと思うが、マナー、モラルの部分として啓蒙・啓発していかなければならない。
	水田利活用の助成金がなくなる。これではさらに耕作放棄地が増える。行政・JA・改良区全体で、地域を守るための施策を。	水田利活用助成金に代わるもの、もしくは何らかの措置を考えていただくよう、国にも厳しく指摘をしているし、今後も機会を見つけて要望していく。
	若者たちが就職できる場所の確保のため、企業誘致は重要。市としてどのように進めようとしているのか教えてほしい。	就職希望者の選びたい仕事は、性別・就職年齢等によって様々。バランスよく産業が存在しないと人口のバランスも偏ってしまうため、あらゆる産業での雇用の創出が重要。進学で勝ち取った知識を、ふるさと横手で活かせる舞台も作っていく。
	若者を対象とした「住みたいまち」アンケートでは、①安定して多くの職場があり、働きがいがある ②安全・安心で子育てや生活できるまち ③緑が多く潤いや安らぎが感じられるまち という結果のようだ。十文字には新しい住宅街も増えている。若者が住みたくなるまちにする工夫を。	横手は犯罪、交通事故が少ない。日ごろから住民の交通安全活動、見守りが行き届いている証拠であり感謝申し上げます。子育てに関してはまだまだやるべきことがあるため、あらゆる可能性を模索し努力をしていく。山・川などの自然も完全に有効活用しきれない。あまりにも馴染みすぎていて私たちでは感じ取れない魅力というものも大事にしていく。
	河川敷は若者や親子が集いアウトドア、運動公園などとして活用できる。しかし、トイレや手洗い場などが整備されていない。	河川公園のトイレは国有地のため、難しい問題。国の機関と話をする際に要望していく。
	十文字第一小学校跡地について。平成高校・増田高校・雄物川高校の統合案が出ているが、この土地を有効活用できないか。	十文字第一小の跡地については、子育てを念頭に置いて、多世代すべてが集えるような、遠方から人が来て楽しめる・交流できる空間をつくりたい。
6月14日 平鹿会場	平鹿地域局ではアメシロの防除機の更新はしないようだが、何とか更新について前向きに検討してほしい。	合併直後から、市の方針として「更新しない」としていたものの、場所により方針の切り替えができないか今検討している。なお、今後農林部農林整備課が導入し、計画的に各地域局にレンタル用の機械を配置する計画があるため相談してほしい。
	市報の郵送配達はできないか。核家族など、配達員になるのが難しい場合もある。	地域毎におかれている事情が様々。今後検討していく。
	学校からの距離の都合で、家の前をスクールバスが通るのに乗れない家庭がある。バスに乗る人数が少ないのであれば、乗車できないか検討してほしい。	市では、バス通学の規則がある。全員を乗せることは、バスの台数・通学時間等の関係で難しい。距離の規則は児童・生徒の身体を強くするためでもあるため、ご理解いただきたい。
	（先のスクールバスを含め）子育て世代に市としてきめ細かな対応や手当をしてくれれば、横手への移住を検討するきっかけになるのではないか。	子育て支援のあり方については、市独自の支援はじめ横手の環境・風土の豊かさや安心安全な部分等で、全国と比べても大きな強みがある。もっと磨き上げていく。
	まんが美術館について、企画展以外は無料となっているが、少しでも入館料を払っていただいて、収入を増やす取り組みをしても良いのでは。	ご提案の内容について、美術館側にも伝えさせていただく。
	市政懇談会の広報の仕方について。市報への掲載が小さかったり、HPのイベントカレンダーに掲載されていないなど、不備があると思う。	今後、改善させていただく。
	市長個人のSNSの発信が、他の市町村長等と比べて少ない。	これからは積極的に発信を増やしていきたい。
6月20日 大雄会場	大雄トレーニングセンターの存続をお願いしたい。	地元の声は聞いているが、今後長期的に見据えた上での決断であるため、どうかご理解いただきたい。
	集落の公園の遊具が古くなっている。新設が認められない予算的な事情は理解するが、古くて危険になった物の撤去を早期に実施してほしい。	安全にするのは我々の役目である。しっかり検討していく。
6月21日 増田会場	市道（安養寺～菅生）の復旧工事をお願いしたい。昨年の大雪で市道が崩れ、部落の生活道路が使用できず、迂回している。	皆様には大変重要な道と存じているし、不自由をきたしていることにご迷惑をおかけしている。一日も早く復旧できるよう、対応を行っているところ。（羽場菅生線：R5年度工事予定。）
	交通弱者にとって、交通手段が狭められている。市の交通網が盛んになるよう、民間企業と連携等できないか。	デマンド交通の改善や民間企業の連携など手を尽くしているが、地域ごとに様々な特性・利点を検証しながら、今より良くなるよう取り組んでいきたい。

6月21日 増田会場	地元若者を留めておくよう、学校の教育で子どもたちに働きかける必要があるのでは。	大学に進むとなれば市外へ行ってしまふのは仕方ない。アルバイトと仕事の両面で人を引き寄せられる魅力を持った横手になるよう取り組み、この人口減少を食い止めたい。
	婦人科やベットの病院などが、生活圏に少ない。体制も24時間体制になっていないところがほとんど。	市で病院を増やすことは難しい。そもそも、医師然り、小児科・婦人科も減少傾向にあるため、医師を目指す方が増えるよう国や大学等にも働きかけていく。
	十文字駅にエレベーターを設置できないか。	今現在、JRでは設置の計画はないが、問題意識を持って関係各署と改善に向けて協議してまいりたい。
	田んぼや山を処分したい人が増えている。相続税もかかる。何とかできないものか。	農山村に都市部の人を呼び込む「目的」や「仕掛け」を作り、活気づくような取り組みを考えている。相続税が発生してしまうことについては、全国一律のルールのためご容赦いただきたい。
	温泉施設について、小さくとも、憩いの場を提供してもらいたい。	今後議会や地域の皆様と相談しながら検討してまいりたい。
7月13日 さかえ館	ゴミの不法投棄や野焼きがなくなる。	野焼き・不法投棄も含め、非常に残念な事案と受け止めている。引き続き環境に対する意識の啓蒙・啓発を粘り強く行っていく。
	柳田工業団地の企業で使用している水について。地下水を活用しているのか、圃場整備の影響か、地域の水が枯渇して、農作物への水やりに困っている。	企業の工場には水道が通っており、それを利用しているはずである。おそらく土地改良に伴う水路改修の影響があると思う。
	市の少子化対策について。人口増加になるような良い政策を継続して浸透するようにお願いしたい。	今施策を検討しているが、成果が出たとしても目に見えて人口増加の兆しが見えるのは、30年ほど後になるだろう。非常に厳しいが、逃げずに取り組んでいく。
	新しい市民会館の建設場所はどこになるのか。	現在の横手体育館の隣の場所になる。駐車場の確保や駅から徒歩でのアクセスも可能な距離であること、様々な移動手段が集まれる場所などの視点で選定した。
	新しい体育館が現在のふるさと村の雪捨て場の位置にできるとなると、新しい雪捨て場の確保が心配だ。	雪捨て場については、東部斎場の近所と清陵高校の近く（川とトンネルの間の土地）を考えている。また、他にも将来的に確保できそうな土地もある。
	新しい体育館、市民会館は、赤字にならないようにしてもらいたい。	活用度が上がるよう、運営について今後も検討を続ける。
	全国でやっているような子育て世帯への補助政策（補助や教育費の負担軽減・奨学金制度）をお願いしたい。	子育て世帯の負担軽減は当然のことと考えているし、市独自でも子育て世帯への補助をしている。市の財政状況も含めてできる限りのことを尽くしていく。
7月14日 雄物川会場	空き家問題について。これ以上増やさない方法と、空き家の活用方法についてどう考えるか。	市では権利者に適切な管理や解体を働きかけたり、危険防止のネット設置等をしている。利活用については、グループホームとしての利用も考えられるが、今後検討していく。
	人口消滅（減少）を棚上げして地方創生は有り得ないと思う。	財源に限りがある中で、効果的な政策を打つ。加えて、少子化対策に財源の重きを置くことに対して、市民の皆様からのご理解をいただく必要があると考えている。
	高齢者への温泉施設の利用助成券を、個人の利用回数制限をなくせば、温泉施設の利用者増につながるのでは。	施設利用者だけに特段の援助がいくという不公平感が出ないように、利用回数に限りを設けさせてもらっている。ご理解いただきたい。
	少子化問題について若い人の考えを知ることでも必要ではないか。	若い方々の考えも勉強しながら、ある程度暮らしぶりを豊かにできるような環境を整えていくことが重要。
7月22日 かまくら館	温泉施設（鶴ヶ池）について、建物を売却したり、福祉施設にしたり等できないか。	市には福祉計画がある。福祉施設も検討したが、今後予想される高齢者数の推移を見なければならず、福祉施設が廃業となれば入居者が路頭に迷うことになりかねない。単純には福祉施設として活用させることができない事情もある。
	職員の不祥事（窃盗・飲酒）の処分について、停職とした理由は。	懲戒分限審査会において、過去の処分と照らし合わせた上で適当な処分が判断している。こういう事態は発生させてはならないと思っているし、綱紀粛正に努める。
	企業誘致について、開発部門のある企業を積極的に誘致してはどうか。	大事な着眼点である。今ある企業にも、立地が決まった企業の中にも、開発部門は存在する。若い技術者が満足するような空間の提供ができないと誘致するのが難しいため、彼らが来たいと思える横手市にしたいと思っている。
	経費を削減するために、道路のパトロールをした時に発見した亀裂を早い段階で（その場で）補修してしまえば、経費を抑えられるのではないか。	防災・減災国土強靱化のための5か年加速化対策ということで、国の方にも維持管理と壊れる前の補修する予算をお願いしている。
	工業団地に誘致している企業に、工業高校出身の生徒の採用をお願いしたい。	人材確保は、地元企業においても苦慮しているため、誘致企業に優先的にというのも難しい側面がある。
	県にも要望して横手に工業科を増やしてほしい。	地元の高校には、地元の産業を支える学習をする学校になってもらいたいと伝えているし、そうなりつつあると感じているが、今一度県にも地元の声として伝えたい。
	秋田美術短大や秋田の大学の分校を誘致して、若者を引き連れてくる政策や、新しい文化を生み出す施設の建設も検討してみたい。	産業とコラボして新しいモノを生み出す流れにしていけないと勿体ないと感じている。誘致企業と大学がコラボして横手に開発のための研究機関を引っ張ってくることも働きかけたい。

7月26日 山内会場	温泉事業に関する市民アンケートによると、温泉3施設を市で継続してほしいとの意向であったが、いつ頃に決定するのか。	年度内には、議会に提案させていただいて、ご意見を頂戴しながら、話を詰めていきたい。できるだけ早く道すじを提案したい。
	結婚して外国から日本に来た方について、運転免許の取得が大変だと声がある。市に窓口がなく、どこに相談したらよいか。また、何かしらのフォローができないか。	まずは、どれくらいの対象者がいるのか情報収集するとともに、どのようなフォローができるか、県等にも話を聞きながら検討したい。
	横手の魅力に農業があるのに、10代～20代の野菜の摂取率が低い。これからの農業振興について、こういった傾向に対して何が重要と考えるか。	食育で食習慣のアプローチを。減塩を進めることにも時間を要したので、食材の摂取率の向上となると、なかなか一筋縄ではない。産地と消費者の関係作りを政策としてやっていく。
	高齢化が進み、田んぼが荒れている。それに伴い、熊や猪が出ています。	猟友会の後継者育成を図っていくとともに、猟友会に頼るのみならず、農地中間管理機構等と連携しながら、荒廃した用地の再生の両輪で頑張っていく。
	山の木が伐採されて、禿げ山になっている。大雨が来たらどうなるのか不安だ。	山の状況については把握している。安全性に問題は無いとの認識。林業の担い手の少なさから、効率性・経済性を睨みながら考えてやっているものと受け止めている。
	アリーナ建設により、雪捨て場がなくなるが、別の場所に捨てる土地はあるのか。	同等の面積の雪捨て場の確保・用地取得を検討している。
	市がリストアップした有形無形文化財（2200点の残したい市のお宝）を、今後保存・管理していけるかが心配。博物館のような保存場所や管理する人が必要では。	本来は、それに関わる方の責任で守っていくのが第一であるが、保存・管理の担い手がいないのであれば、物によっては市が、信頼できる機関に託す形で引き受けなければならないと考える。市として体力・能力がある限りは受け皿として頑張っていきたい。博物館となると、学芸員の雇用が必要になるが、分野が多岐にわたるため、専門分野ごとの配置は難しい。
7月27日 大森会場	国会で、病院の設備の問題により、統廃合があるとの厚生労働大臣の発言があったが、大森病院の存続に向けて、設備の問題を何とかしてほしい。	大森病院は地域医療の要であり、経済性のみで存廃を決められるのは絶対に許してはならない。設備投資も応えられる範囲で行いながら、存続に向けて努力していく。
	県道29号線の八沢木トンネルから300m手前が未改修のまま何十年も経過している。傾斜になって、カーブで見通しが悪く危険であるので、改修をお願いしたい。	危険な場所であると県に伝える。
	大森病院に登る道路が、冬になると雪ですれ違えなくなる。市で正規の雪捨て場を用意してもらうとともに、水を流して融雪してほしい。	雪捨て場の用地確保のための国の財源を設けてもらうよう要望を出そうとしている。できるだけ効率よく対応していきたい。
	新幹線の整備について議会等で取り上げられているか。	新幹線の整備が実現すると、地域経済の相当な起爆剤となる。実現に向け、JR・国土省・県など関わる自治体と連携しながら訴えていく。
自治体は、障害者就労支援施設に優先的に仕事を依頼してほしいというような法律がある。様々な事業所に配分するなどして、障害者が希望が持てるようにお願いしたい。	できる（任せられる）仕事を創出することも大事だし、今ある仕事の中で振り分けられるものも再度精査し検討させていただく。	
7月28日 金沢孔城館	温泉施設の利用料金（入館料）をいくらに設定すれば赤字にならなかったのかと、把握されているか。	施設ごとに違うだろうが、1,000～1,500円ほど。この料金だと高いため利用者が減ることがあれば、更に上（2,000円以上）にしないと採算が取れないと思う。
	温泉利用者の減少と、社会人口減との差はどうなっているか。	明らかに人口の減り具合以上に利用者が減っている。
	東口再開発の農協と商工会議所が入るビルに、今後新たに事務所を構えたいと希望があった場合、入居できるものなのか（許容能力があるか）。	機能や支所の集約などを考えると、空き部屋は出にくいものと思っている。再開発をきっかけに空地にオフィスなどが建ち、その建物に入居するなど、都市の新陳代謝が生まれるきっかけになればありがたい。
	農業生産が東北トップレベルという特性を生かして、力を入れて頑張っていってほしい。	現在、農家戸数は減っているが一戸ごとの所得は上がっている傾向にある。せめて子どもを2人以上育てられるくらいの所得を得られる環境を作りたいと思っているが、まだまだ道半ばということで職員一同頑張らせていただく。